

2. ハザードマップは様々な災害情報の宝庫、先のことまで分かる？

市町村が発行しているハザードマップを見たことがありますか、近くに貼ったりしていつでも見られるようになっていませんか。住んでいるところを含む広い範囲の地形図を見たことがありますか、住んでいるところの昔はどうなっていましたか。地形図は大地の歴史を教えてくれますが、同時に自然災害に対する強さ、弱さも教えてくれます。ハザードマップをベースにして、これまでの災害の履歴やこれからどのようなことが暮らしているところおよびその周辺に起きやすいのかを知ることはとても大事なことです。

このような地図を読むことで暮らしている地域の災害リスクを知ることができますし、災害の時の前兆にも気づきやすくなります。また、通学や通勤のルートについても、避けるべきところや注意すべきこと、万一の時の代わりの避難ルートを考えるのにも役に立ちます。災害時には、様々なところから、ハザードマップで確認してくださいというのが伝わりますが、急に言われても戸惑いますのでハザードマップを身近に置いて日頃から見慣れておくと、どんなことが起きやすいのかをイメージできますので、避難の時期、場所、方法などを適切に考えられる余裕が出てきます。豪雨災害時でも、何が何でも避難所へ向かうのではなく、家の中でもより安全な所に、まずは避難するという方法もあります。日ごろからハザードマップで災害の発生イメージをしておくと、災害時でもあわてずに先に進むことができますし、不案内の土地での応用もできます。そして、復習するような気持ちでよいのですが大事なことは、その地図を見ながら或いは頭に入れて住んでいる地域を歩いてみることです。そうすると大まかな環境がわかると思います。特に、都市部の近郊に住んでいると、旧市街地とは違って昔の地形やようすが大きく変化していることがあります。しかし、災害のリスクが潜在していることも多いので、そもそもの地形の特性を知ることにもなります。特に大規模に造成したり、盛土をされたところでは、いまの様子からはうかがえないものや先人の土地の利用の仕方などからも災害のリスクを想像できますし、先人がどのように災害へ対応してきたのかも推測ができて暮らし方の参考になります。いまどんな地形なのか、かつてはどのような地形だったのか、昔はどのような災害があったのか、安全な暮らしを妨げる自然現象をどう避けてきたのかなどを知ることは大変に重要なこととなります。仮にそのようなところに住んでいなくても、避難の時のルートとして避けなければならないこともあります。どんな災害が起きるのか、起きたらどのような被害が拡大するのか、どのように避難するのが良いのか、避難所に直行するだけが安全な避難方法ではありません。周囲の状況を知った上での行動をしないと二次災害に遭遇することもあるということです。

また、地域のことをそこに暮らしている人たちでぜひ話し合ってくださいと、これまでのことや先のことなど様々な意見や知恵が出てきます、とくに長く住んでいる人や古くからの住民の知恵は役に立つことも多くあって、思いがけない災害への備えを知ることにもなります。それがコミュニティの醸成にもなって、何かの時には助かる有益な知恵にもなっていきますし、地域の災害文化にもつながっていくのではないのでしょうか。